木彫による造形研究　2015
クロッキー＆ドローイング

岩井　義尚　*Yoshinao Iwai*
（美術学部）

作品の形の素は、「自然のモノをデッサンしていると、その源は球体、それも機械的な球体ではなく、心地良い球体の単体又は複合体である」と考える。私の創作は、この考えを基に「視覚に訴えかけるのに重要である水平要素・垂直要素そのものが創り出す空間」を使い構成している。

第 38 回　中部二元会展　2016.3.29 ～ 4.03
愛知県美術館ギャラリー 8F G1.G2.H.I 室（名古屋市）

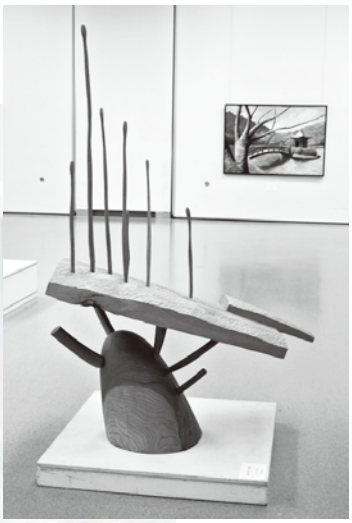
テーマ；「動き」「流れ」「生」

作品における一つの方向は、テーマからイメージし、形の根源を動物（人も含む）・植物・自然現象から創作要素を探り、構成を考慮し、素材（木）を彫ることにより形（Form）を創り出す手法で具現化した立体とレリーフ、もう一つの方向は、塊の木の持つ存在感・力強さ・素材感を活かし形を彫り出して表現した立体がある。平面作品は、ペンで描く多くのフリーハンドの線の重ねにより、人物の構成し、立体作品に影響するエスキースの要素を含むドローイングと人体クロッキー（各種描画素材）による表現の研究をする。

Form 1601
檜（ヒノキ）
H90×W320×D155（㎝）

「Form 1601」は、他の作家が過去に使われた長さ平均 70 ㎝ × 直径平均 60 ～ 80 ㎝位の竹輪状の檜材が入手出来、その材を見てからペン＆インクによるドローイングでアイディアを平面考察したモノを基に制作し、第 38 回中部二元会展に出品した作品である。作品の長辺が 3m強の大きさで、大地の流れ、雄大さを表現している。

過去に使われた檜材



KATATI 1996
欅（ケヤキ）＋栓（セン）
H167×W66×D118（㎝）

第 38 回中部二元会展に展示した作品で、海中の生物・海草を意識して、軽やかなイメージの栓の板状の上部と、ケヤキ材のどっしりとした基礎の下部を組み合わせた情景表現をしている。
（1996 年制作）

Form 1503「遊№10」
樟（クス）
H50×W25×D10（㎝）

Form 1503「遊№10」は、このシリーズ中の最小作品で、10 ㎝厚の樟材に 3 人顔を寄せ合って三つ巴に遊んでいる動きを意識した表現をしている。

Form 1504
栓（セン）
H50×W52×D45（㎝）

Form 1504 は、同じような形…凹部から外側につながる…を 2 個組み合わせて、静かな形態から動きを感じとれる表現をしている。モチーフはホヤ貝。

Form 1505　サクラ＋パーロッサ＋イチイ
H20×W40×D5（㎝）

Form 1509　クワ＋サクラ＋イチイ
H20×W41×D5（㎝）

Form 1507
ケヤキ＋クス＋イチイ＋ヒノキ
H55×W25×D7（㎝）

Form 1510
クワ＋ケヤキ＋イチイ
H70×W22×D4.5（㎝）

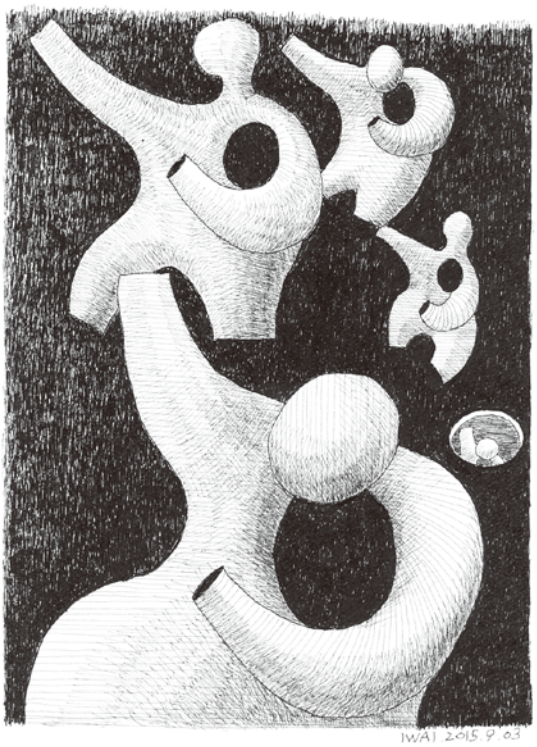
Form 1508
ケヤキ＋アフリカンパドック＋イチイ
H48×W18×D4（㎝）

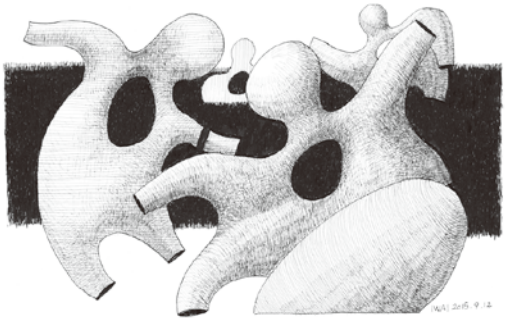
「Form 1506」～「Form 1510」は、レリーフ作品のためのアイディアを平面考察したドローイングを基に、様々な木の種類の材を使い壁面を飾ることを目的にし、制作した作品である。
由美画廊（浜松市）企画「暮らしの中の木の造形」三人展に出品。

「流れ」「動」をテーマにしている。

クロッキー（デッサン）

現在所属している中部二元会の研究会での成果で、色画用紙・上質紙に鉛筆で動きや流れ量を意識して描いている。同会の研究展及び「Art of 20歩」作品展に出品。

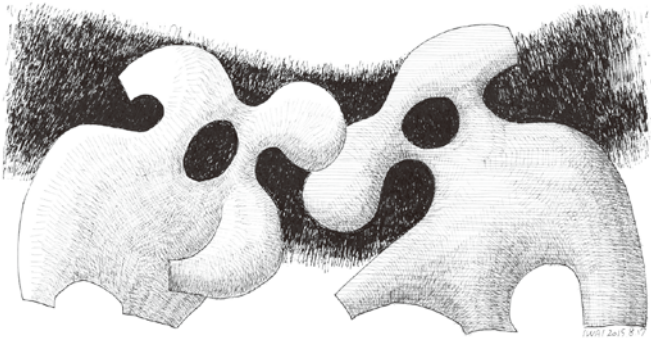


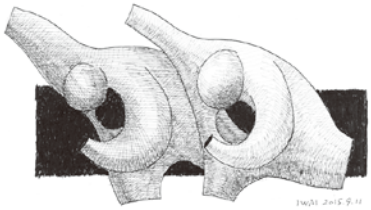


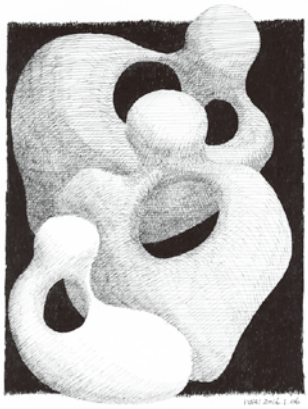
ドローイング

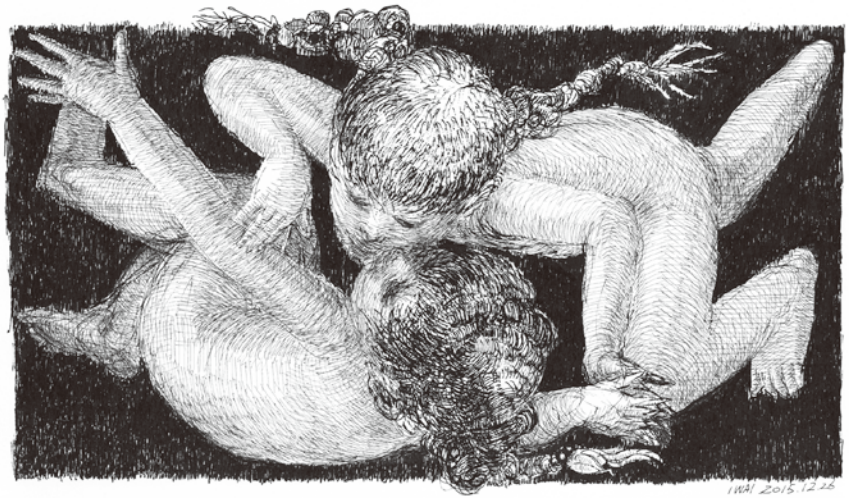
これらのペン＆インクによるドローイングは、木の板によるレリーフ作品のためのアイディアを平面考察したものである。

祭り躍りやダンスをしているところをモティーフにしている。









ドローイング

これらのペン＆インクによるドローイングは、立体又はレリーフ作品の「遊」シリーズのためのアイディアを平面考察したものである。黒はロットリングペンを、色がついているモノは万年筆を使用している。

ドローイングは、「Art of 20歩」作品展及び「ちゅうしんアートギャラリー」に出品。